

# 島前合宿 報告書

この国内研修で島根県隠岐郡の島前地区を訪れたことにより、多くの経験ができたことと同時に、自分自身の課題や改善する必要があることに気づくことができました。

島前合宿が始まって初めに行われた企画は、島前高校のヒトツナギ部との交流会です。この交流会では、高校生に今年のヒトツナギの振り返りをして次につなげてもらうことと、大学生が高校生や地域の方と積極的にコミュニケーションを図れるようにすることを目標としていました。実際に高校生と交流し、ヒトツナギについて感想を聞いたりそこからお互いに意見を出し合うことができ、そこから課題や他の立場の人に直接聞きたいことなどを考えることができ、とても良い時間を持つことができました。高校生も質問したことに対して積極的に話をしてくれることや、課題の改善案などを自分たちから出してくれていてやりやすかったです。それによってグループ内も盛り上がったのはよかったですと思います。大学生側が高校生を名札に書いてあるニックネームで呼ぶことによって、距離を近づけることができたのも大きかったです。しかし、この企画を通して個人的に反省すべき点もありました。まず、グループ内の大学生同士の役割分担をうまくすることができず、ひとりにメモを任せきりにしてしまうなどがあったことです。分担して話し合いを進めていくことで、それぞれがより深く話し合いに参加していくことができたのではないかと思います。また、高校生の話を引き出したのはよかったけれどそこで聞く側になってしまうことがあったので、もっとこちら側の考えを多く伝えられれば良かったです。全体としては盛り上がっている班が多くあり、それぞれよく話し合いができていたかと思いますが、やはり班ごとに差が出てしまっていたこともあったようです。他には、大学生側がヒトツナギについて知らなさすぎるという指摘をいただきました。たしかに全体を通して高校生に説明してもらう時間が長かったということがあったので、その過程を飛ばせるように大学生がより知識を持って臨むことも必要だなと考えました。この交流会で高校生が、ヒトツナギを客観的に見ることによって改善できる点や自分たちが気付いていなかったポイントに目を向けることができたのではないかと思います。また全体を通して、個人的にも大学生側としても、いくつかの課題やうまくいった部分を見つけることができる機会に参加することができてとても良かったです。

隠岐國学習センターへインターンをしている大学生とのワークショップは当初予定していた日には台風の影響で行うことができず、次の日に改めて行われました。その日も直接会って交流することはできず、インターネットのビデオ通話を利用してワークショップを行いました。このワークショップでは主に、地域で活動することや島前について話し合いました。実際に会って議論をすることができませんでしたが、それぞれ議題について話し合い、それをお互いに発表するという形でした。このワークショップの中で印象に残った

ことの1つとして、自分が地域に入ることによってすぐに何かを変えられるわけではないということに改めて気づかされたことです。今までにまちづくりに関する授業聞いてきたことや、実際に地域に入り活動を成功させた人の話を聞いていく中で、何かしら行動を起こせば変化は起きるものと考えていた面がありました。しかし、このワークショップで実際に地域に入っている先輩やインターンの方の話を聞いて、長い時間かけても自分で何か変化を起こしていくことは難しいということに気づかされました。今回話を聞くまで、学生が地域に入って活動するだけで少しは地域にも良い変化が起きると私は考えていましたが、その地域では何が求められているのか、必要なことは何かを知るだけでも時間がかかるという意見を聞き、今まで考えていなかったことにも目を向けることができるようになりました。もともと自分が興味があった地域福祉や福祉施設における環境の改善においても、同じような壁があることに気付けたこともとても大きかったです。自分は深く考えているつもりだったことが甘いものだとわかったことで、これからの学習や実際に動くときの心構えが変わったと思っています。貴重な場を持つことができました。

自分自身が一番変わらなければと思われたのは、西ノ島中学校の3年生との交流会でした。大学生と中学生がペアを組んでワークシートを使いながら進めていく形をとりました。ここではそれぞれのペアが離れていたため、自分たち大学生が時間の調節や全体の進行を行いました。私は人数の都合で2人の中学生とワークを行いました。初めに考えていたよりも断然難しかったと実感しました。初めに大事なことが、初対面の自分にどれだけ気を許して話してくれる雰囲気を作ることができるかでした。最初中学生が緊張している時なるべく気軽に接することを意識したけれど、イマイチ2人をのせることができなかつたように思いました。実際全体を通して、こちらの質問に答えるけれど相手からはあまり意見が出ない形になっていた気がしました。この点は自分の話の広げ方やコミュニケーションの取り方の問題だったので、最も反省すべきことでした。また、ライフストーリーチャートを作成してもらうときにも、ポイントをわかりやすく伝えることができず、中学生が作るのに手間取ってしまっていたこともありました。個人的に多くの反省と課題を見つけることができただけでなく、少しずつでも中学生の話す場面が増えていったことを実感できたことがとてもうれしかったです。大学生全体としても中学生との関わりの中で、意識しなければいけないことやコミュニケーションの取り方を考えながら進めていくことができたのではないかと思います。

このようにいくつかのワークの他にも6日間で多くの体験をさせていただきました。初日に参加させていただいたキンニャモニャ祭りでは、京都の大学生と一緒にキンニャモニャ踊りに参加することができました。地元の方だけでなく島外からも多くの参加者が来ていて、踊りの列が本当に大迫力でした。何よりお祭りの最後の花火が、目の前で打ち上げられていてこれもまた迫力がすごすぎました。島前にいる間はすべてに圧倒されていたようなものでした。キンニャモニャ踊りも少しは練習していましたが、やはり他の参加しているチームは比べ物にならないほどうまく、踊りながらでも見ているのが楽しかったです。

西ノ島を自分たちだけでまわる日がありました。その日は天気にも恵まれて海に入ること  
もできたし、島内を自分たちの足で巡ることができました。観光地に行ったわけではない  
ですが、歩いていると地元の方が挨拶をしてくれることや細かい景色などを楽しむことが  
できて、島の普段の魅力に触れることができた気がします。また、2日目の夜には星がき  
れいに見える高台に連れて行ってもらいました。自分はずっと東京に住んでいるので空が  
星でいっぱいになるような景色は見たことがありませんでした。そこで見た空は今までプ  
ラネタリウムでしか見たことがないようなものでした。見渡す限り星があって、たまに流  
れ星が流れるのも見ることで、本当に感動しました。

島前を訪れてみて、普段の自分の生活には身近なものでもないものが多いけれど、  
逆にすごく特別にかんじるものが多いと感じました。これは本当に魅力的だったし、  
1度訪れたらまた何度でも行きたくなる場所でした。1週間もない短い期間だったけれど、  
多くの体験をさせていただいて新たに気付かされたことも多くて、本当に有意義な研修で  
した。参加させていただいたこと、関わってくださった方々に本当に感謝しています。